

91歳、現役
で活躍中

“桜守” 第16代 佐野藤右衛門氏に聞く日本庭園 研修(2019/6/15)

株式会社植籐造園会長、佐野藤右衛門氏をお迎えし、特別に通訳ガイド向けのお話をして頂きました。



講師プロフィール:

天保3年(1832年)より代々、仁和寺御室御所の造園を担ってきた。第16代藤右衛門は、14代が始めた全国サクラ保存活動を継承し「桜守」としても知られる。桂離宮、修学院離宮の整備を手がけ、パリ・ユネスコ本部の日本庭園をイサム・ノグチに協力して造る。ピカソ・メダル、勲五等双光旭日章を受け、2005年には棟梁として京都迎賓館の庭園を造成。



関西地方は6月15日にして未だ梅雨に入らずという異常気象。受講者38名の半数以上が関東他遠方から来られるという熱気の中、時折ハッとさせられる様々な問いかけも講師から受けました。講義の要約を以下に記します。

【自然と向き合う心得】

桜も日本庭園もその土地の歴史、時代、気候風土、地形により全て違うが、それを感じることができる生活を我々はしているのだろうか。講師の日常は、茅葺の家にて窯でご飯を炊き、五右衛門風呂の生活。「毎朝ご飯を炊いて食べている人は？」と問われ、何人かが挙手。しかし「それは機械が炊いているのでは？」と指摘された。最近は何でも機械に頼る。こういう事実を忘れてしまい自然界の事を知ろうとするのはまず無理というもの。

【作庭はその土地の自然、風土を活かす】

作庭は製造業でも加工業でもない。自然のままのものをどう使うかというだけの話。気候風土は全て違う。一番大事にしなければいけないのは方言、その土地の味、その土地の祭り。植物は植生が皆違うので風土により合わないものが一杯ある。京都の場合、庭は時代によって作り方が全部違う。京都には1000m以上の山は無いが、80%超が山。北から南まで約20km弱で、その間落差が70mしかない。そこに鴨川と桂川が流れている。勾配によって植生が変わるが、この斜を利用して雨水、排水も考えて作庭する。自然は自然のままがいい。今はあまりに作りすぎて本当の日本の良さがなくなっている。

【全て着物が基本！ 尺貫法を理解しよう】

昔の住まいには縁側があり、そこに腰掛けて靴を脱ぎ石に足をのせて庭を眺めた。昔は着物の生活で庭に出る時は庭草履を履いた。今は太腿、臍まで出してハイヒール。危ないので飛び石は平にせざるを得ず趣がなくなった。寺の庭には三尊石があるが、宗派、本尊が如来か菩薩かによっても違うので勉強が必要。寺の階段は蹴上り6寸から7寸。8寸では着物がまくれ上がるからだ。飛び石は大体5寸に打つ。着物の文化を基本として尺貫法を基に考えてある。

【米の文化と麦の文化】

明確な四季があるのは世界で日本列島だけ。縄文時代は梅雨と秋雨を加え六季だった。お陰で植物の種類も豊富になり、その中で衣食住が決まっていた。日本の食文化、米の文化に、神道、仏教が絡んでいる。日本でもJune Brideが流行だが、その起源である西洋は麦の文化で、麦の刈入れ後長い冬を経て6月が一番良い時期に当たる。一方で米文化の日本の6月は、最も

忙しい時期で、蒸し暑さに着る物も限られる。日本人は業者へのせられ真似ているだけで、幸せになるかならないかは当人の問題。京都の本当のことを解るにはその歴史を勉強し直すことが必要。京都は1200年の長い歴史があり、元号によっても特徴があり全部様相が変わっている。庭も桜も同じものは絶対ない。私は物心ついてからずっと京都在住。しかし未だに新しい発見、七不思議が一杯ある。

【桜いろいろ】

桜は山桜、彼岸桜、大島桜が基本で実生。山桜は日本全国にあるが気候風土によりその土地に合うように変化した。群馬県北辺りからは大山桜、紅山桜に、北海道では蝦夷桜になった。染井吉野は人間が作ったので私には桜には入れない。小指程の枝を接木して育てるが、どんなに太くなくても枝であり幹ではない。寿命が50年から100年と短いのは当然である。

桜の花は1週間だが、その後1年かけて来年の花を作る。故に1年間見なければ解らない。昭和20年を境に全てが変わり、桜の生育も目に見えて変わった。温暖化、これが一番怖い。今年の花はとにかくデタラメ。それに気付いてもらわないと！冬が無くなり冬の営みができず、蕾が十分膨らまない内にパッと咲いてしまった。新緑のこの時期は自分の体を作っている最中。八月のお盆頃に半分位葉を振り落とし枝も枯らす。桜は枝枯れしながら大きくなり、その時来年度の花芽と葉芽を作る。それが温暖化で、体ばかり作り花芽ができないのだ。

【話題は尽きず…】

その他広範囲に話題が及びました。東大寺とピサの斜塔の比較、草食動物と肉食動物、桜の受粉と種蒔きは昆虫と小鳥が担う、地中のミズ、モグラも生育に必要、生育に影響する土質は京都はチャートと呼ばれる深海堆積物で粘土性の高い土、東京は関東ローム層、山桜の葉色は三通り、枝垂れ桜の垂れ方も三通り、山桜と彼岸桜の見分け方、姥桜の素晴らしさ、関西では花は新月から満月に向かって咲く等々…話は尽きません。

講師は造園家、桜守のみにあらず、ユーモアに長けた名ガイド、あつと言う間の2時間でした。第2部は円山公園現地研修。雷鳴と雨にもめげず続投。祇園枝垂れ桜は2代目。15代藤右衛門が初代の種から育てて寄贈したもので、十六代藤右衛門氏と同年齢。「支柱で保護したら反対に悪くなり、取り払った。自然のままだいい」又の機会を祈りつつ終了となりました。(田村聡子)

(講師:佐野藤右衛門 コーディネーター:田村聡子 スタッフ:松岡明子・吉田英夫)

【東京】

日本橋の会場にて3日間の座学、そして20日は恒例の貸切りバスでの都内および成田空港の現場実習で、すべて無事終了。成田空港でのミートの実習では、バス乗車の時、第1、第2両ターミナルで、指定場所にて20分近くの待ち時間が派生しました。実際のツアーでそうなった場合、お客様をバラさず不満なくどうやって待たせたら良いのか？悩ましい問題ですが、事前に想定ができていれば何らかの準備ができますね。

平成最後の研修でしたが、今回から“学級委員”を設定して交流をはかることとなり、最終日には1904の4月組クラス委員長も全員一致で選ばれました。すでに活発なクラス活動？が進んでいるようで今後も期待されます。それぞれの委員長、どうぞ宜しくお願いいたします！(松岡明子)

(講師:ランデル洋子・松岡明子・金子潤・大久保真弓、スタッフ:黒田昌代)

【大阪】

ゴールデンウィーク中の4日間、豊中の会場での座学と京都、奈良の一日バス現場実習を行いました。大型連休のど真ん中での現場実習は、ケーススタディとしては理想的。混雑の人混みでの誘導の仕方、東大寺のバス駐車場の変更の確認、ガイドイングの手法の工夫、バス内でしっかり説明、現場ではコンパクトなガイドイング、など、またとない体験となりました。(松岡明子)

(講師:ランデル洋子・松岡明子・福井道孝・田村聡子・吉田英夫、スタッフ:吉田英夫・西野順子)



インバウンド旅程管理研修 東京 (2019/3/10)

東京・大井町のきゅりあんで金子潤講師を迎えて実施されました。既に昨年度より全国通訳案内士の試験で旅程管理に関する出題はされていますが、内容も分量も現場で必要とされるレベルには不足。今後も本研修は新人にとって必須だと実感した次第です。

今回は人数が少なかったため、バス会社や食事場所への電話のかけ方などのロールプレイ演習をたっぷりとすることができました。今回受講できなかった方、ネットでの受講も可能ですので、ぜひこの研修で実務のノウハウを学び、自信をもって現場へ出ましょう！

(講師:松岡明子、金子潤)

鎌倉箱根バス実習 (2019/3/13)

松岡、福田両講師の巧みなガイドイングに魅せられながら鎌倉到着、小田原で金目鯛ランチ研修、午後は箱根へ向かいました。行程は順調で予定外の関所立寄り散策の時間もとれてラッキー！でした。

しかし強風のため、箱根ロープウェイは朝から運行休止との連絡を受け、海賊船も時間・航路変更とのこと！電話問合せに忙しい旅程管理講師、代替案を模索する講師陣を、受講生は固唾を飲んで見ていました。これこそ教室では得られない、現場実習ならではの研修だったと思います。

幸いにも午後になってロープウェイは再開、絶景の富士山に歓声が上がりました。

今回の研修が現場で活きることは間違いないと思います。どうぞ皆様、自信を持って業務に臨んでください。(鈴木久子)

(講師:松岡明子、福田誠 旅程管理講師・リポーター鈴木久子)



日光バス実習 (5/23)

東京から日光東照宮まではバスで約2.5時間、スタートの車中のガイドイングが重要となるコースです。車窓からふだんは何気なく目にするものに、深い歴史やドラマがあることを学びました。

家康から江戸の話、東照宮の見どころなどは日光到着前の車中で講義を受け、現地では見ることに集中できました。

午後は新緑のいろは坂、中禅寺湖、竜頭の滝、華厳の滝を巡り、人の手による芸術・日光東照宮との対比を体感しました。

帰路のバス内はクイズや受講生からの情報提供などインターアクティブなバス実習となりました。

受講生の皆様、今回の研修を大いに活かし、自信を持って業務に臨まれてください。

(講師:ランデル洋子、松岡明子 旅程管理講師・レポート:鈴木久子)

バーチャル研修《東京をガイドしよう@大阪》 (2019/5/1)

5月1日、ゴールデンウィークのど真ん中でしたが、半日をかけて東京のガイドイングについて大阪で！語りました。まずは、東京と大阪、京都の3都市の比較を、地理的特徴、環状線、街づくりの中核要素である城、皇居、川、港、など必須条件は酷似していることを検証。東京は大阪と京都の約2倍～3倍強の規模なので、ガイドする時、各訪問スポットへの所要時間も2倍はかかります。ガイド話は点ではなく線で繋げてゆくのが理想であり、自然なので、歴史的な流れに沿って江戸から明治、昭和、平成、令和と話を進めてゆける行程を組めればラッキー。いずれにしても、3都市の中で、歴史は一番短い東京なので、自らの話の組み立てを歴史に合わせて展開できるとよいです。

ルートに沿って撮影した動画を使って途中に見える建物も紹介しつつ進めました。参加なさったベテランガイドの方からは、東京スカイツリーのガイドルートについてもそれぞれのやり方が紹介され、人数やお客様の編成によって違うことを確認。

東京に下見にでかける手間暇をかけずに、バーチャルな手法で東京を身近に感じてもらえたかと思います。次回は、京都や大阪のバーチャル研修を東京で開催できたらと願っています。

(講師・リポーター松岡明子、スタッフ・吉田英夫)



あのWSETの資格
ネ！と外国人から言
われる世界レベル
の資格が取れます

特別専門研修 SAKE (2019/6/14)

アルコール飲料講義についての世界的権威、WSET(本部ロンドン)のSAKE特別研修の2回目の開催でした。(協力:株キャプラン)

イギリス人講師のクリストファー・ヒューズ氏をお迎えして、英語で日本酒を体系的に学び、日本特有の「趣」を英語でどのように説明したらよいか、また、午前、午後を通じて10種類の日本酒を視覚、嗅覚、味覚を駆使して分析し、どのように説明したら分かり易いかなど深い学びとなりました。

受講生は、香りや味わいをワインのように「〇〇(果物の名前)の香り」など表現することに驚きながらも、「お客様への説明の幅が広がる！」と意欲的に吸収していました。

アルコールが作られる過程も丁寧に英語で教わり、最後に認定試験に挑む充実の1日コースでした。

このGICSSニュース発行のころには皆様のお手元へWSET修了証と合格バッジが届いていることでしょう。合格の皆さん、おめでとうございます！

(スタッフ・リポーター:黒田昌代)



創立15周年記念

第3回 通訳ガイドコンベンション

2019/9/1/(日)

時間：12:30 - 16:40(開場受付開始 12:00)

会場：東京ウィメンズプラザ ホール

東京都渋谷区神宮前5-53-67

参加費：5,000円(税込)

【2019プログラム】

- 来賓挨拶
- 基調講演
- パネルディスカッション
- 全国のガイド仲間からHello!
- キャラクター別いろいろガイド
- その他：サプライズ企画！
いろいろ…お楽しみに

*通訳ガイドコンベンション:ミニ・ヒストリーと追加演目の紹介

第1回は10年前、ガイド業界初のコンベンションでした。テーマは「磨き合おう技術を、分かち合おう知識を！」

上質の研修や勉強会を催し、互いに意識を高め刺激し合い、技術を高めて自己研鑽して知識を高めようというGICSSの理念を確認する為のワークショップやトークショーによる多種多様なプログラムでした」

第2回は5年前、「今、開幕、活躍のステージへ、心をつなぐ通訳ガイドに求められるコミュニケーション力とは」と題して、ガイド力アップの秘訣、震災時の対応、お客様と繋がるのみでなく、業界の仲間である現場の方々とは知識やルールを共有するには？など多彩なプログラムでした。そして…この度…

第3回のコンベンションを開催いたします。世界的なイベントが続く今年、来年はガイド業界の大きな節目になります。美しい日本に生きる輝くガイドをイメージしつつ、元気が出る、そして学び、語り合うイベントとし、会員同志、そして、志を同じくする多くの方々との交流を深める機会です。

世界中の人々を幸せにするディズニーランドのおもてなしとはいかなるものか？を基調講演で聞き、旅行会社、バス会社、ホテルお客様担当者を御招きして、本音で語るパネルディスカッションが続きます。メインテーマは、“喜ばれるガイドと、残念…?!なガイド”です。その他にも、日頃からの疑問や質問などをパネリストに遠慮なく訊けるQ&A時間も設けます。聞くだけでなく、遠慮せずに発言して、すっきり！しましょう。

現場では一人舞台のガイドなので、先輩や同輩のパフォーマンスは到底聴いたり見たりはできないと思いませんか？いえいえ、そんな希望も叶うのがキャラクター別(通称キャラ別)ガイドコーナーです。各出演ガイドは現在ネタの仕込みに鋭意しのぎを削っています。また、伝統文化ミニ観賞も計画中です。ジックスらしく、観賞だけにとどまらないおまけ解説付です。それでは、皆で輝くガイドになれるように！満席になる前にどうぞお申込みください。

お申込みはこちら⇒



GICSS会員がつなぐ、リレーエッセイ

リレー-ESSAY

48

会員の皆様、こんにちは！

間瀬疾之

定年後何をしようかと漠然と考えていたころ、通訳ガイドを勧める本に出会いました。

大学生活をアメリカで過ごし、それ以来全く英語を使わず三十年。英語はしゃべれるはずという過去の栄光を信じて独学でガイドテストを受験。面接講師の質問は、とりあえず黙らず話し続ける、というテキストの教えに従いラッキーにも合格しました。

元来寡黙で方向音痴、気配り皆無、「自分を信じわが道を行く」の信念で生きてきました。妻に「あなたに最も向きな仕事。絶対無理だからやめとき！」と強く背中を押され、逆にそこまで言われるなら男の意地と、ひたすら研修に励み金も体も使い、薄れゆく記憶力や寂しくなる頭髪と戦いながら何とか今まで大過なくお勤めしてきました。

実は「大過なく」ではなく、様々なお国のゲストの皆様「優しさ」と、昔の英語で頑張っている日本のおじさんガイドへの「気配り」に包まれて、多少のミス(私から見ても)があっても「まあ、仕方ないか！」と情けをかけて頂いているのかも。私はもちろん精一杯皆様に気配りしているつもりですが。

ジックスの研修の後では、ランデル先生、松岡先生、ミツキー先生のガイドの神髄ともいえるべきその洗練された個性豊かな技にショックを受け、そのたびに自信喪失したわが身に鞭打って自尊心を保つのに苦慮しています。

「その年で今さらそんな苦勞せんでもええやろ」という悪魔のささやきに、ついわが身の不幸を嘆く日々。

とは言うものの、そこはおじさんの厚かましき。アサイン頂くたびに己の知識とガイド経験の不足を、笑顔と豊かな人生経験(?)で補いながら(ごまかしながらも)、超ベテランの表情でお客様のおもてなしに尽力しております。

意気揚々と先頭を歩いて道を間違え、お客様のスマホ道案内に助けられたことも懐かしい思い出、ではなく現在進行形。

これから人生百年時代をたくましく生き抜くジョー岡田大先輩を目標として、日々の修行に励んでいきたいと願っております。今後とも皆様の温かいご指導方よろしく願いたします。



☆次回のリレーエッセイもお楽しみに！～会員のご活躍ぶりをご紹介下さい。珍事件、感動秘話、ためになる話…なんでも結構です！

研修名・日程・会場等	チェックポイント
座学C.C.「日本の夏」(東京) 7月7日(日) ナビゲーター: 荻玲子 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター	季節もののトピックは、まさにその季節に話してこそ臨場感が生まれるものです。年々暑くなる「日本の夏」をガイドとしていかにポジティブにお伝えするか? 昨夏「集中WEEK」開催の好評を得て今年も開催です。
GICSS検定(GICSS Guide Skill Proficiency Test) 第10回 日光編 勉強会: 7月5日(金)、15日(月)、22日(月) 審査会: 8月7日(水)、8日(木)	7/5より勉強会スタート。勉強会では参加者が情報を持ちあい共有して知識を積み上げ、審査会では5段階のガイド技術レベルの評価を得られ、自身の実力を数値化できます。今回受講されなかった方も半年に一度の次のチャンスを捉えて下さい。
座学C.C.「日本の舞台芸術」(東京) 8月18日(日) ナビゲーター: 城戸弘明 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター	能や歌舞伎など伝統芸能から宝塚歌劇、世界的ヒットのミュージカル、最新のテクノロジーを融合したVRなど、日本は多彩な舞台を楽しめる珍しい国です。お客様が「観たい!」と思うプレゼンに挑戦しましょう。
通訳ガイドコンベンション(東京) 9月1日(日) 12:30-16:40 会場: 東京ウィメンズプラザ ホール	発表当初よりコンテンツが充実し、スタート時間が「12:30」に繰上りました。本紙3ページと合わせてご覧ください。
地域スポット研修: 神楽坂 9月19日(木) 講師: 秋元裕美子	芸者が活躍する街として栄えた神楽坂は、外国人観光客にも人気のスポットです。江戸の面影を残しながら、今「リトルバリー」と呼ばれる一角も生まれているこの地域を、実際に歩いて学びます。
座学C.C.「ストーリーテリング」 11月(予定) ナビゲーター: 芹田啓子	通訳ガイドは話すのが仕事。日本の昔話、小噺、怪談、おもしろヒストリー...さまざまな語りの引き出しを作る座学C.C.です。
【定期研修を始めます】 第16期より、宗教(神道・仏教・イスラム教等)の基礎研修を定期開催を計画しています。第1弾は前回2016年に大好評だった「イスラム教」です。また、従来のC.C.に加えて「C.C. NOW!」もスタートします。「今、街のホットな話題は?」をテーマとした、日本現地のガイドだからこそ外国人に紹介できる話のアウトプット・トレーニングの場。テーマ選び自体が良い訓練となります。「今」をアウトプットできる力を付けましょう!	
定期基礎研修: イスラム教 12月(予定)	ムスリムのお客様が増え、通訳ガイドにもイスラム教に関する基礎知識が必須になってきています。イスラム教の教義、生活信条、ハラルの知識などを学び、心が通じるガイディングを目指します。
定期座学C.C.「日本の“今”を伝える」 12月(予定) ナビゲーター: 甲佐美由樹	時事英語なんて固いものではなく、その時々旬な街の話題を紹介できるようにするのは、日々の視点の持ち方、そして英語表現の研究に良いトレーニングになります。参加者がさまざまな話題を持ち寄り切磋琢磨、人それぞれの切り口に触れて互いに大いに学びましょう。

座学C.C.「桜と日本人」(京都) (2019/6/15)	座学C.C.「スポーツ」(東京) (2019/6/29)
京都国際交流会館で8名の参加者でC.C.を開催。 桜を主題にして、各自のユニークな切り口で見事にこのテーマをお客様に楽しんで頂けるガイドトークに料理されました。語り口の一部は下記: 『新学期・新会計年度の始まり(4月1日)と花見』、『富士山本宮大社とこの花咲くや姫』、『Tree Doctor』、『吉野山の千本桜』、『女性の名前第3位の“さくら”』、『短命な桜の開花に美をみる日本人』等でした。ナビゲーターからのトークは皆さんとダブる部分も多かったですが、『桜前線、おめでたい花見、花見に見る日本人の美意識』をテーマにしました。 参加者の皆様は、来年の桜の時期のガイディングが待ち遠しい事でしょう。(ナビゲーター・レポーター: 福井ミッキー スタッフ: 吉田英夫)	様々の競技の紹介だけでなく、施設や関するグッズの話題、日本古来の球遊び、直近に迫ったラグビーワールドカップや五輪など、いろいろな視点からスポーツについて学び、意見を交換した一時でした。話を聞いて「なるほど」と思わせるだけではなく、ぜひやってみよう、と行動を起こさせるには、自分の「好き」という思いだけではなく、どこで見られるのか、体験できるのか、費用はいくらか、要件や予約の必要はあるか、などの具体的なHow toが必要のようです。 最近、スーパードッジボールやカラーリングを経験しましたが、新しいスポーツもどんどん増えていて、スポーツの話題は間口が広いです。自分ならではの話をぜひつくってみましょう。 (ナビゲーター・レポーター: 金子潤 スタッフ: 黒田昌代)

＝編集後記＝

- グレーの空が続く後はどんな夏が訪れるのでしょうか。はやぶさの快挙が嬉しいです! 今回のGN、73号にして発刊後初めて、発行が3週間も遅れて、申し訳ありませんでした。昔は多種作業同時進行OK! だったんだけどなあ。大型イベント前の緊張影響か? コンベンションでは多くの会員の皆様と集結したいです。(よ)
- 今年は関東周辺では日照時間が極端に短いとの発表がありました。桜守の佐野氏いわく、異常気象で桜もなにもかも、むちゃくちゃになる・・・歯止めをどうやってかけるのか。やはりマイバッグで明日からスーパーで買い物します。(ま)
-

◆GICSS研究会 賛助会員&協力会社

株式会社 JTBグローバルマーケティング&トラベル
CEL英語ソリューションズ
東武トップツアーズ株式会社
協同組合 京都ハンディクラフトセンター
近畿日本ツーリスト株式会社
株式会社日本旅行